

■ブラジル：大停電の原因は落雷である可能性が高い

鉱山・エネルギー省の報道官はメディアに対し、2009年11月10日に24州のうち18州で発生した大停電の原因は、落雷と悪天候が原因と見られると語った。報道官によると、最終報告書は現在作成中であるが、技術者や電力の専門家グループの間では、イタイプ水力発電所からの送電線が数度にわたる落雷を受け、送電不能になったと考えられているとのことである。しかし、ブラジル国立大気研究所（Inpe）が最近発表した研究によると、落雷がそれぞれの送電線に当たる確率は15%以下であるとしている。また、当該送電線は老朽化しており、改修の必要があるという意見もあり、落雷だけが停電の原因ではない可能性もある。現在、政府による調査が続いており、最終報告書の発表時期は明確にされていない。